

柱	事業	位置付け	目標値
I 安全	自転車走行空間の整備 ⇒自転車事故の抑制につながる効果的な取り組みであることから、引き続き指標として設定し、積極的な整備を進め、安全性の高い走行環境を創出する。	継続	自転車走行空間の整備延長 (km/計画期間〔累計値〕) 【H27年度実績】 【目標】 21.7km (12.1km) ⇒ 56.9km (35.2km) カッコ内は計画期間の整備距離 ※自転車交通量や事故状況、NCC形成ビジョンを踏まえ、整備路線を設定
II 快適	中心市街地における駐輪環境の充実 ⇒オリオン通りを中心に放置自転車が散在していることから、新たに指標を設定し、放置自転車対策を強化しながら、駐輪場の周知啓発に取り組み、良好な駐輪環境を創出する。	新規	中心市街地における駐輪場の利用者数 (人数/年間) 【H26年度実績】 【目標】 253,094人 ⇒ 282,000人 ※中心市街地の市営駐輪場（東武宇都宮駅東、中央1丁目、中央小北駐輪場）の過去5年間の利用者の増加傾向を踏まえ、目標値を設定
III 楽しく	宮サイクルステーションの充実 ⇒施設利用者が年々増加しており、さらなるサービスの向上が求められていることから、具体的な数値を定めた指標を設定し、サービスやスポーツバイクセミナーの充実に取り組み、市内外にPRするとともにさらなる利用促進を図る。	継続	宮サイクルステーション来館者数 (人数/年間) 【H26年度実績】 【目標】 5,692人 ⇒ 6,200人 ※来館者の増加傾向を踏まえ、目標値を設定
IV 健康とエコ	自転車通勤の促進（自転車モニター事業） ⇒自動車通勤から自転車通勤への転換を図るためには、自転車利用のPRが必要であることから、環境意識の向上や健康増進などの効果が体感できるモニター事業を実施し、モビリティマネジメントと併せて広くPRすることで自転車利用の促進につなげ、環境負荷の低減とともに、自転車を活用した健康づくりを促進する。	継続	自転車モニター事業（参加者数等） ※モニター事業の定量的な目標値は、平成28年度において事業の具体的な手法等を協議する中で、数値目標を設定する。
V つながる	交通結節点への駐輪場整備 ⇒NCC形成ビジョンやLRT導入を見据え、交通結節点の強化が求められていることから、新たに指標を設定し、主要なLRT停留場やバス停付近について駐輪場の整備を進め公共交通との連携強化を図る。	継続	駐輪場整備箇所数 (箇所数/計画期間〔累計〕) ○バス停 【H26年度実績】 【目標】 6箇所 (4箇所) ⇒ 12箇所 (6箇所) カッコ内は計画期間の整備箇所 ※バスの運行本数や周辺人口、JR宇都宮駅との距離等を踏まえ、利用促進が図れる箇所を選定 ○LRT停留場 ※数値目標については、事業の具体化の検討を進める中で設定する。

## イ 成果指標（案）

	事業	位置 付け	目標値
1	自転車に関する交通事故件数（発生件数/年） ⇒安全に係る成果指標として、前期計画に引き 続き設定	継続	【H27年実績】      【目標】 429件                ⇒    320件以下 ※第10次交通安全計画より
2	自転車交通分担率【チャレンジ目標】 ⇒前期計画にチャレンジ目標（H23～H32）と して設定 ⇒前期計画に引き続き、国勢調査において、通 勤・通学における自転車の利用割合を設定	継続	【前期計画策定当初】 20% 【H22年度実績】      【目標】 15%                    ⇒    25%
3	市民満足度【チャレンジ目標】 ⇒前期計画にチャレンジ目標（H23～H32）と して設定 ⇒市政世論調査における「自転車を使いやすい まち」の質問に対する回答割合を設定	継続	【前期計画策定当初】 29.6% 【H26年度実績】      【目標】 28.5%                ⇒    50.0%

### 【チャレンジ目標】

前期計画策定時に10年後の平成32年を目標年次とし、「自転車のまち宇都宮」を目指すため、より高い目標値を設定した。

- ・自転車交通分担率：中核市トップクラスの分担率を参考として設定
- ・市民満足度：世界トップクラスの自転車施策に対する満足度を参考として設定